

# 第1回定例会

6名の議員が町政全般にわたり理事者の考えを質しました。

・一般質問①

## 一般質問



安田一彦議員

### 佐田間町立診療所の設置について

町立診療所の工事や運営にかかる費用は！

町長へ詳細に詰めている段階

決まり次第提案したい。

【質問】 町立診療所設置の概算工事費、概算運営経費はどの程度を考えているのか伺います。

【答弁】 (町長)

今詳細に詰めていますが、4月以降の状況も見た中で提案させていただきたいと思っております。

【質問】 医師の給料、手当、または経営状況により、町の負担が発生するのか。

【答弁】 (保健福祉課長)

医師の確保、赴任医師の指導に係る経費、法人の利益の部分も町は負担をしていく考えです。

【質問】 建設検討委員会、それに類似した委員会が必要と考えるか。

【答弁】 (町長)

議会に特別委員会があるの

で、その中で協議し詰めていただきたいと思います。

【質問】 小田医院を町立診療所にした時の業務委託の契約内容、譲渡契約の時期と契約内容を伺います。

【答弁】 (町長)

業務委託契約の内容については、現在の小田医院の体制をそのまま引き継いでいただき、金額等については5月までに検討していきたいと考えています。

【答弁】 (副町長)

譲渡時期は5月以降で、その時に佐田間町立診療所が開設になり、来年3月まで小田先生に業務委託をする形で進めていきたいと思えます。

【質問】 小田医院から無償で資産の譲渡を受けるに当たり、書類で明文化をした中で契約

をされるかと思っておりますか。

【答弁】 (保健福祉課長)

診療所、財産は小田先生の個人のものであり、寄附採納の届けがあれば町のものとなり完了するものと考えています。

【質問】 佐田間厚生クリニック閉院時点で医師が確保できない、または一人だった場合、どのような診療所の運営をするのか。



町立診療所となる小田医院

【答弁】 (町長)

現時点で医師が見つからないことや1名体制の診療になることは想定していません。

【質問】 指定管理者、恵尚会の町立診療所運営に町は関わっていくのか。

【答弁】 (保健福祉課長)

毎月収支報告、入院及び外来患者数、収支の中身の報告など管理業務全てを委託しているの、今以上の報告をもらいながら、信頼関係も高めて診療に当たっていただけるような体制をつくってまいります。

【質問】 町立診療所運営に関わる委員会、協議会を設置する考えは。

【答弁】 (町長)

町立診療所は指定管理ですの、組織をつくる考えはありません。

【質問】 監査機構はどのように考えているのか。

【答弁】 (保健福祉課長)

監査は医療法人のほうの監査役員がやることになりませんが、その後、指定管理者のため議会に報告義務がありますので、皆さんで審査も行い、また町の監査委員による監査もしていくこととなります。

# 第1回定例会

・一般質問②



船木 司 議員

## エゾシカの駆除対策について

【質問】  
現在のエゾシカの町内での被害の状況はどのようになっていますか。

【答弁】（町長）

今エゾシカが非常に多く生息しております。かつて明治には絶滅の危機になり捕獲は禁止されておりました。保護政策の結果、昭和55年以降増加しまして、道東を中心に農林被害をもたらし、被害額は23年度北海道全体では農業被害が62億3000万円で、林業被害が1億7000万円、合わせて64億円となっております。

オホーツク管内の農業と林業の合計では8億5000万円の被害額となっておりますが、その中で本町につきま

ハンターの育成は  
どうなっているか？

町長、22年から育成支援を行い、  
4名の方が駆除に取り組んでいる。

では、農業で1100万円との報告を受けています。林業については、町有林の立木にエゾシカによる被害が若干ある程度で、以前から見ると現在の被害額は減少傾向にあります。

エゾシカの繁殖力は非常に高く、今後も被害額が増加することや車両との接触事故、さらには市街地にあらわれたエゾシカの駆除については、猟友会との連携強化を図りながら、このエゾシカ対策を万全な体制で今後も継続してまいりたいと考えています。

【質問】

今後の予算の増額について  
はどのようになっていますか。

【答弁】（町長）

町のシカ駆除、捕獲の部分

ですけれども、1頭1万円という形で出しており、農協でも出しています。また、特に浜幌生産組合のほうでも出しております。これから捕獲していただいた方の報償は出していきたく考えています。

【質問】

ハンターの育成について、現在の状況はどのようになっていますか。

【答弁】（町長）

野生動物との共存、共生については、生息数のコントロールが不可欠な要因となっていますけれども、その課題解決の一翼を担うハンターの減少が佐呂間町においても歯止めがかからない。佐呂間ばかりでなく全国的にそのような傾向にあります。



市街地にあらわれたエゾシカ

つきましては、昭和53年の約2万人をピークに減少が続いた結果、平成21年度の狩猟者登録者数は約6000人になっていきます。このうち60歳以上の方が48%以上で高齢化が進んでいます。本町でも同様な状況で、猟友会会員は平成10年には26名おりましたが、平成21年には16名に減っています。

このような中、平成22年にハンター育成支援として猟銃免許の取得、銃の購入支援を行ったところ、24年までに4名の方が資格を取り駆除に取り組んでいるところです。

# 第1回定例会

・一般質問③



但木早苗 議員

## 高校の存続について

【質問】 道教委の2013年度から15年度の高校配置計画案が示されキャンパス校の案も出されていますが、高校の存続は地域のあり方にも大きく左右しているのではないのでしょうか。

【答弁】 これまで同窓会の皆さんの署名活動が取り組まれましたし、第4期総合計画にも高校存続の対策強化が打ち出されています。高校存続については教育推進方針で述べられているものの、町政執行方針では全く触れられておりません。存続に向け今後どのように取り組むか町長に伺います。

【答弁】 (町長) 20名を2年連続で割り込むと存続の危機となりますが、今6割、7割が佐呂間高校へくると判断したとき、生徒の授業環境を考え地域キャンパ

## 高校存続に向けて

どのように取り組むのか！

町長、地域キャンパス校として存続

させていくのがベターと考える。

【質問】 ス校として存続させていくのが一番ベターかと考えています。20名を切らさないために今後佐呂間高校存続対策協議会等の中でもんでいきたいと考えています。

## ふれあいバスの運行について

【質問】 住民の足として定着したふれあいバスですが、昨年党支部が実施した住民アンケートに「休日、親子や友達同士で外出できない。」という声が寄せられ、町外の方の休日来町ができないことも考えらる、ある意味休日には陸の孤島になってしまい何らかの解決策が必要かと思われませんが、町長の考えを伺います。



病院へ向かうふれあいバス

## 【答弁】 (町長)

現在町外路線ダイヤは全て町内路線とリンクし、地域集落に配慮したものとなっているため、休日運行には町内路線の運行も必要となることから経費増大が懸念されます。また、本町における車利利用者の普及率は100%に近く、休日に地域や親子の絆を図る上で、両親等の車で出かけることも大事なことと考えてい

ます。

町外路線バスは、運転免許を返納した高齢者等を含め通院を目的として運行しており、現状のまま継続したいと考えています。

## 【答弁】 (副町長)

ふれあいバスの住民説明会の中で、毎日遠軽・北見両方向へという形で説明を行っていたところ、お金がない中で毎日ではなく良いと住民から言われたこともあり方向転換したものです。

## 住民が受けられる

サービスを冊子にし  
全戸配布を

【質問】 町で取り組んでいる住民サービスが、住民や町へ転入されてきた方に一目瞭然でわかる冊子をつくり全戸配布をしては考えますが町の考えを伺います。

## 【答弁】 (町長)

昨年刷新したホームページ、衛生力レンダー、町広報等々を活用していただければと思っておりますが、今回の提案を含め必要という判断になったときには、しっかりと対応させていただきます。

# 第1回定例会

・一般質問④



佐藤昭男議員

## 地域、地区避難所の 冬期間の除排雪等について

地域避難所の

除排雪はどうするのか！

町長へ緊急時以外は

各地域で対応願いたい。

【質問】

昨年12月の一般質問でもあったように、冬期間の防災対策として避難所の駐車場は冬の除雪も含めて担当部局と連携をとり進めたいと回答がされましたが、どう進められたのか。

また、今年のような特に雪が多い場合にあつては、町が避難所として標識を設置している地域・地区の避難所の除雪等の実態をどう把握しているのか。除雪等に苦慮している避難所に対し、町として今後どのような対応をしようとしているのか。

【答弁】(町長)

災害時の緊急時には人命救助の観点から素早い対応が求められ、町の機動力、災害協定を行っております地元建設業界の支援要請等を行い、避難者の誘導を目的とした除雪にも対応してまいりたいと考えています。

通常での公民館使用に伴う除排雪につきましては、今までも各施設管理者である自治会長等において行っていたことについては基本的に考えているところです。

今後とも町の冬期間の除雪を推進する中で、私は常日頃から皆さんにお願いしている

のは、自助・共助、どうしてもできない場合、困難な場合は公助をするという形の中で、災害時の避難があつたときには、町の機動力により対応させていただくということをご理解願いたいと思っております。



雪が残る地区公民館

**第2回定例会は6月に開催されます!!**

日程の詳細は、町広報6月号の折込みチラシをご覧ください。是非傍聴にお越しください。



# 第1回定例会

・一般質問⑤



高瀬 トシエ 議員

厚生クリニックから19床の町立診療所へ

町民の安心と期待に応えるためには

19床を有効に活用するため  
福祉施設や訪問診療の拡充が  
必要では！

町長「今のところ拡充は考えていない。」

【質問】 町立診療所の新設は小田医院の継承をもって19床の病床枠を維持することができ、町内唯一の医療機関としての役割は大変重いものがあります。

高齡化、医療、福祉の総合的な観点から対策を考える必要があり、胃ろう、床ずれ、軽度の訓練などに対応できる福祉施設の増設と看護師等の増員、加えて医師による訪問診療の拡充など福祉施設における体制を構築することで、患者や家族の安心を支えると同時に一般住民の入院も可能になるのではと思っております。また、町立診療所開設時の健全運営のあり方について伺います。

【答弁】（町長）  
小田医院を継承するに当

たつては、慢性疾患による長期入院など、19床を現状のまま町立診療所に受け継ぐことであり、26年4月以降もそのままの体制で続ける考えで、在宅寝たきりなどの高齡者に対し、計画的に行っている訪問診療についても継続していくつもりだが、福祉施設を拡充し、そこで訪問診療することは今のところ考えておりません。

病院はあくまで患者さんを直接診ながらやるということと、訪問診療にウエイトをおくと診療に対応できないことから、動ける人はふれあいバスやデマンドタクシー等で来てもらう、そういう対応を行ってまいりたいと考えています。

運営については、指定管理に運営を委託することから、

医師2名、看護スタッフ、事務関係を含め現在の診療報酬では当然赤字が想定され、さらに医師確保、赴任医師の教育、施設管理など新たな対価を支払うことから、町の財政にとって有利なものを活用しつつ負担をまいりたい。全額町が負担することは既に伝えていきます。

【質問】 25年度内の厚生クリニックの診療体制は、最後まで堅持されるのか。

【答弁】（町長）  
1月に厚生連会長と会った際は、しっかりと診療体制を

「胃ろう」って、  
腹部を切開して胃の中に管を通し、食べ物や水分、医薬品などを直接流入させる処置



乳製品への影響も懸念されるTPP問題

維持するとの状況でありましたが、長島副院長より、3月いっぱいこの退職申し出があったそうです。今後の体制については、厚生連の対応も含め後日説明いたします。

TPPに対する

町の考え方について

【質問】 TPPに関して道や地域の緊迫した実情を考慮し、町としての対応は。

【答弁】（町長）  
3月10日にオホーツク圏域のTPP断固阻止の緊急大会に参加を予定しており、町村単位の対応をとることになれば、いち早く町を挙げての反対行動など適切に対応したいと考えています。

# 第1回定例会

・一般質問⑥



三田真美議員

## 保健福祉センターについて

【質問】  
25年度の重要施策として町立診療所を設置するようになりました。

診療所の新築に伴い、併用して保健福祉センターをつくり保健師の業務を移して保健福祉エリアを集約し町民の利便性を図るべきと思いますが。

【答弁】（町長）  
町立診療所に保健センター的なものをつくるよりも現在の庁舎内で対応することが望ましいと考えています。

【質問】  
第2次佐呂間町健康づくり行動計画がありますが、町民の心身ケアのために地域包括支援センターでの病気や入院の相談をうける医療ソーシャル

## 町立診療所に併設し保健福祉センターを集約しては？

町長、現状で対応することが望ましいと考えている。

ワーカーが現在いるのでしょうか。

また、いなのであればどのような対応をしているのか。

【答弁】（町長）  
ある程度大きな相談については、役場に来ていただくようになっていますが、プライバシーに配慮して積極的に自宅に訪問する体制もとっています。

【答弁】（保健福祉課長）  
医療ソーシャルワーカーは本町にはいませんが、社会福祉士や主任介護専門員などで相談業務は対応しています。

【質問】  
老人アパートが老朽化していますが、今後建て替える計画はないのでしょうか。



建設から30年以上経過している老人アパート

除雪などを考えると冬期間だけそこを利用したい一人暮らしの高齢者もいると思いますが。

【答弁】（町長）  
現在、矢坂歯科医院の後ろの職員住宅を解体することで、跡地についての活用を検討しているところで、様々な状況を考えて進めていきたいと思っています。

## 定住促進事業

について

【質問】  
本町の人口を増やしていくための政策が必要だと思いますが、どのような事業を展開していくのか。

【答弁】（町長）  
住宅定住対策は、企業に協力をいただきながら団地の造成と売り込みを、農業に関しては新規就農支援、産業後継者対策と継続した事業を行っています。

【質問】  
定住は外に向けてホームページなど有効利用し、情報発信する必要が有ると思いますが、アピール不足では。

【答弁】（企画財政課長）  
定住促進については、空き家対策も含めて町のホームページでの周知を充実していきたいと考えています。

## 「医療ソーシャルワーカー」

とは？  
社会福祉の立場から病気やけがをした患者や家族の心配事など様々な相談に応じてくれる相談・援助の専門職